

第一 八歳未満ノ幼者又ハ老疾者タルコトヲ要ス所謂老疾者トハ文字廣漠ニシテ其何タルヲ解スルコト難シト雖トモ八歳未満ノ者ニ比較シテ其程度ノ區劃ヲ定メサル可カラズ蓋シ此罪ハ幼者老疾者又ハ疾病者ノ如ク自ラ生活スルコト能ハサル者ヲ遺棄スルトキハ遂ニ死傷ニ至ルノ危険アルカ故ニ之ヲ罰スルナリ故ニ老疾者疾病者ハ自ラ生活スルコト能ハサル者即チ他人ノ救助ヲ得ルニ非サレハ衣食スルコトヲ得サルモノニ限ルナリ

第二 遺棄ノ所爲アルコトヲ要ス遺棄ハ讀テ字ノ如ク之ヲ解スルコト難カラズ然トモ或場合ニハ其意義ヲ確ムルノ必要ヲ見ルコトアリ例ヘハ當歳ノ孩兒ヲ棄テ、他人ノ拾フヲ待チ居リタルトキハ遺棄ノ所爲アリト云フヲ得ルヤ否ヤ若シ普通ノ意義ニ解スルトキハ此場合ニモ亦遺棄ト云フコトヲ得ヘシ然レトモ余ハ右ノ場合ニハ未タ遺棄ノ罪アリトセス何トナレハ此罪ハ幼者老疾者ヲ遺棄スル事ノ徳義ニ反スルカ故ニ之ヲ罰スルニアラスシテ其結果遺棄セラレタル者ノ生存ス可カラサルニ至ルカ故ニ之ヲ罰スルナリ而シテ前例示ノ事實ノ如キハ遺棄者尙ホ之ヲ監守シ若シ其兒ニ對シテ危険ノ發生セントスルトキハ之

ヲ救助スヘク之ヲ拾フ者ナキトキハ或ハ携ヘ歸ルモ亦未タ知ル可カラズ即チ法律ノ之ヲ罰スル所以ノ危険ハ未タ生セサルヲ以テナリ由是觀之所謂遺棄トハ管ニ棄ツルノミナラス監守ヲ止メタルコトヲ云フナリ

遺棄ノ罪ハ其遺棄ノ場所ニヨリテ刑ニ輕重アリ即チ寥闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ重ク否ラサル地ニ遺棄シタル者ハ輕シ而シテ寥闕無人ノ地トハ山野森林ノ如キ地ヲ指スモノ、如シト雖トモ必ズシモ然ク一定スルコト能ハス山野森林ノ地ト雖トモ或ハ寥闕ナラサルコトアリ都市熱鬧ノ地ト雖トモ時トシテハ寥闕無人ナルコトアリ要スルニ其寥闕無人ノ地ナルヤ否ヤハ犯罪當時ノ狀況ヲ以テ之ヲ判別スヘシ而シテ刑ニ輕重ノ差ヲ設ケタル所以ノモノハ其場所ニヨリ生命ニ危険ヲ生スル恐ノ大小アルヲ以テナリ

此犯罪ニハ一ノ加重ノ場合アリ犯人給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ義務アルトキ是ナリ(第三百三十八條本條ノ規定ハ重キヲ「給料ヲ得テ」ノ語ニ置カサルヘカラス給料ヲ得ルニアラサレハ假令人ノ寄託ヲ受ケタル幼者老疾者ヲ遺棄スルモ加重セス是給料ヲ受クルトキハ其責任更ニ重大ナレハナリ

遺棄ノ結果殆ト直接ノ結果ト云フヘカラサルモ毆打創傷ト同シク疾病又ハ死ニ致スコトアリ今普通ノ考ヲ以テスレハ此ノ如キ結果ヲ生シタルトキハ毆打創傷罪トノ俱發ヲ以テ論スルヲ至當トスルカ如シ然ルニ立法者ハ第三百三十九條ニ於テ此場合ヲ規定シテ「幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癱疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス」ト爲シタリ是其惡意及危險ノ度更ニ大ニシテ毆打創傷ヨリモ重ク罰セサルヘカラスト云フノ理由ニ出テタルナリ

最後ニ第三百四十條ノ規定ハ遺棄ノ罪ニアラサルモ之ニ關係アルヲ以テ此ニ併記シタルナリ曰ク「自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ云々○若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

幼者ヲ略取誘拐スル罪

○第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

本節ノ罪モ亦左ノ二要素ヲ以テ成立ス

第一 被害者幼者ナルコト

第二 畧取又ハ誘拐ノ所爲アルコト

第一 被害者幼者ナルコトヲ要ス其幼者ノ年齢ニヨリテ刑ニ輕重ノ別アリ即チ十二歳未滿ナルトキハ重ク十二歳以上ナルトキハ輕シ此區別ハ至當ノ者トス

第二 畧取又ハ誘拐ノ所爲アルコトヲ要ス略取トハ其意ニ反シテ他所ニ伴ヒ去ルヲ謂ヒ誘拐トハ之ヲ勸奨シ其承諾ヲ得テ他所ニ伴ヒ去ルヲ謂フ故ニ幼者自ラ進ミテ伴ハルトキハ罪ヲ成サ、ルナリ

右二要素ノ外ハ藏匿又ハ交付モ此犯罪ノ要素ナルカ如シト雖トモ此ハ略取誘拐ノ結果ニシテ罪ノ成立ニ必要ナル條件ニアラス若シ之ヲ一條件トセハ藏匿ノ語ハ之ヲ最モ廣キ意義ニ解シテ自家ニ留置スルヲ以テ足レリトシ敢テ之ヲ隱秘スルコトヲ要セス

尙此犯罪ニ付テ注意スヘキモノ三アリ

(一) 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ亦罪アリ是恰モ盜贓物ナルコトヲ知テ之ヲ收受シ

タルト其情ヲ同ウスルモノナリ

(二) 本節ノ罪ハ親告罪ノ一ニシテ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス是其被害者ノ名譽ヲ保護スルノ意ニ出テタルナリ而シテ第三百四十條但書ニ依レハ略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシトアリ是亦一家ノ關係ヲ保護スルカ爲メニ外ナラサルヘシ

(三) 幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタルトキハ其年齡ノ區別ナク特ニ重キ刑ヲ以テ之ヲ罰セリ加之此場合ニハ之ヲ親告罪ト爲サス之ヲ重ク罰シタル理由ハ敢テ言ヲ待ス其告訴ヲ待タスシテ罪ヲ論スルハ一國ノ害復々一家一私人ノ利害ヲ顧ミルニ違アラサルヲ以テナリ

○ 第十一節 猥褻姦淫、重婚ノ罪

本節ニハ種々ノ犯罪ヲ併記セリ左ニ之ヲ分説セン

猥褻罪

第一 猥褻ノ罪

猥褻ノ罪ヲ構成スル要素ハ左ノ二トス

第一 被害者十二歳未満ノ幼者ナルコト

第二 猥褻ノ所行アルコト

猥褻ノ所爲ハ一定ノ標準ヲ示スコト能ハスト雖モ本節ニ規定セル罪ハ多少淫事ニ關スルモノト看做サ、ルヘカラス

此罪ニ付テ一ノ注意ヲ要スルハ通例被害者ハ十二歳未満ノ幼者ナルコトヲ要スト雖トモ若シ暴行脅迫ノ手段ヲ以テスルトキハ被害者十二歳以上ナルトキト雖トモ亦罪ヲ成スコト是ナリ加之暴行脅迫ヲ以テ十二歳未満ノ男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シタルトキハ更ニ重ク之ヲ罰スルナリ

強姦罪

第二 強姦ノ罪

強姦罪ノ構成條件ヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一 姦淫ノ所爲アルコト

第二 婦女ノ意ニ反スルコト

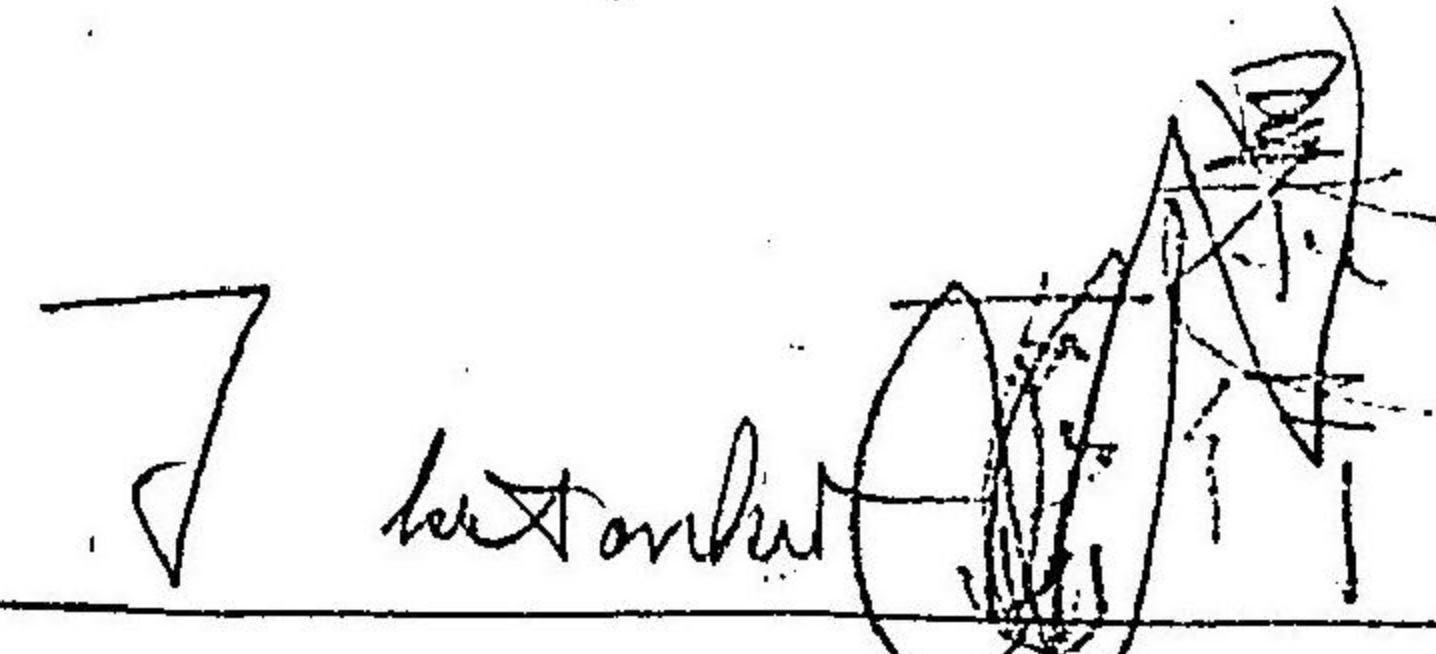
第三 強暴ノ手段ヲ用井メルコト

第一 姦淫ノ所爲アルコトヲ要ス姦淫ハ犯人其情ヲ遂ゲタルトキニアラサレ

ハ既遂ヲ以テ論ス可カラサルヤ否ヤノ問題アリ然レトモ余ハ犯人ノ其情ヲ遂ケタルト否トヲ問フコトヲ要セスト信ス何トナレハ之ヲ名譽ニ對スル犯罪トシテ視ルトキハ犯人其情ヲ遂ケタルニヨリテ名譽ヲ害スルニアラス又之ヲ身体ノ對スル犯罪トセハ犯人情ヲ遂ケタルトキハ之ヲ遂ケサルトキヨリモ其被害ノ度更ニ大ナルモノアルヘシト雖モ亦其害ナシト云フコトヲ得サレハナリ

第二 婦女ノ意ニ反スルコトヲ要ス強暴ノ手段ヲ以テ姦淫ヲ行フモ婦女ノ承諾アリタルトキハ強姦ニアラス而シテ其承諾ハ姦淫ニ着手スルヨリ以前ニ之ヲ與ヘタル場合ノミナラス着手ノ當時承諾ヲ與ヘタルトキモ亦強姦罪成立スルコトナシ

第三 強暴ノ手段ヲ用非タルコトヲ要ス此條件ニ付テハ刑法上明文ノ規定アルニアラス故ニ或ハ此條件ヲ要セスト謂フ者アラシ然レトモ第三百四十八條第三項ノ規定ニ依レハ強暴ノ手段ヲ用非テ爲シタルコトヲ要スルノ意明ナリ若シ強暴ノ手段ヲ用非サルモ婦女ノ意ニ反シテ姦淫ヲ行ヒタル者ヲ強姦ヲ以テ論スヘキモノトセハ該條第二項ノ規定ハ毫モ必要ヲ見ス何トナレハ藥酒等



ヲ用非人ヲ昏醉セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタルトキハ婦女ノ承諾ナキコト勿論ナレハナリ又該條第二項ハ強姦ヲ以テ論ストアリテ婦女ノ承諾ナクシテ姦淫ヲ行ヒタルモノハ純然タル強姦ニアラサルコトヲ意味セリ故ニ強姦ハ強暴ノ手段ヲ用非テ犯シタル場合ヲ指セルコト明ナリ

右ノ如ク解スレハ佛國刑法學者間ニ論題ト爲レル疑點ハ容易ニ之ヲ解説スルコトヲ得ヘシ即チ婦女カ一時精神ヲ喪失セルニ乘シテ姦淫シタル者ハ強姦ナルヤ否ヤト云フ是ナリ此疑問ハ佛國ニ於テ未タ一定セス實際家ハ多ク強姦ナリトセリ然レトモ我刑法ノ解釋論トシテハ強姦ナラサルコト論ヲ俟タサルナリ何トナレハ強暴ノ手段ヲ以テシタルニアラス又婦女カ精神ヲ喪失シタルハ犯人ノ致シタルニアラスシテ第三百四十八條第二項ヲ以テ論スルコトヲ得サレハナリ

詐術ヲ施コシ婦女ヲ姦淫シタル所爲モ亦強姦罪ヲ成サス其理由ハ前述ヘタル所ト同シ

姦淫ト云フ語ハ不適法ノ交合ヲ指スナリ余今特ニ之ヲ解説スル所以ハ或場合

ニ於テ必要アレハナリ即チ夫カ強暴ノ手段ヲ以テ其妻ノ意ニ反シテ姦淫ヲ行ヒタルトキハ強姦罪成立スルヤ否ヤノ問題ヲ決定スルニ當リテハ此點ヲ論定スルコトヲ要スルナリ

娼妓ニ對シテハ強姦罪ノ成立スルヤ否ヤハ一ノ疑問タリ一説ニ曰ク娼妓ハ淫ヲ鬻クヲ業トス故ニ其意ニ反シテ之ヲ姦淫スルモ毫モ其身体名譽ヲ害セサルヲ以テ強姦罪ノ成立スルコトナレト然レトモ余ハ一概ニ然リ断定スベカラサルモノト信ス娼妓ハ客ニ淫ヲ鬻クヲ業トシ法律上殆ト其交合ヲ適法トシテ認メタルカ故ニ客カ強暴ノ手段ヲ用非テ姦淫スルモ強姦ノ罪ヲ成サスト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ客ニ非サル者カ強暴ノ手段ヲ用非テ姦淫シタルトキハ亦強姦ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ此場合ニハ前述ノ三要素ヲ具備シ而シテ娼妓ハ淫ヲ鬻クヲ業トスルカ故ニ如何ナル姦淫モ法律ハ之ヲ保護セスト云フヘカラサレハナリ

此犯罪モ亦被害者ノ十二歳未滿ナルト十二歳以上ナルトニヨリテ區別シ十二歳未滿ナルトハ重ク之ヲ罰セリ

和姦罪

第三 和姦ノ罪

和姦ハ通例刑法ノ罰スル所ニアラスト雖モ若シ十二歳未滿ノ幼者ナルトキハ之ヲ罰スルナリ(第三百四十九條)而シテ此犯罪ニ付テハ別ニ説明ヲ要スルモノナシ

以上三個ノ犯罪ニ通シテ適用スヘキ二個ノ規則アリ

(一) 此等ノ犯罪ハ皆親告罪ニシテ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス(第三百五十條)之ヲ親告罪トシタルハ前節ノ罪ト同シク被害者ノ名譽ヲ保護スルノ理由ニ基ケルナリ

(二) 此等ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷罪トノ俱發ヲ以テ論ス其他ニ往々其例ヲ見ル所ナリ但強姦ニ因テ廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ特ニ重ク之ヲ罰シ數罪俱發ノ例ヲ用非ス是其情狀重キヲ以テナリ

有夫姦罪

第四 有夫姦ノ罪

有夫姦ノ罪ニハ左ノ三條件ヲ具備シタル場合ニ成立ス

第一 姦淫ノ所行アルコト

刑法(各論)

第二 婦ノ承諾アルコト

第三 有夫ノ婦タルコト

第一ノ條件ハ強姦罪ニ付テ述ヘタルト同シ第二ノ條件ヲ要スルハ強姦ト區別スルカ爲メナリ第三ノ條件ハ此犯罪ノ成立ニ主要ナル要素ニシテ所謂有夫ノ婦ハ法律上ノ式ニ從テ婚姻シタルコトヲ要スルカ又ハ事實上同棲スルヲ以テ足レリトスルカノ問題アリ余ハ法律上ノ式ニ從テ婚姻シタルコトヲ要スルモノト信ス事實上夫婦ノ如ク同棲スルモ未ダ式ニ從テ婚姻セザルトキハ有夫ノ婦ト云フヘカラス故ニ此ノ如キ場合ニハ假令其夫アルコトヲ知リテ姦淫スルモ有夫姦ノ罪ハ成立セサルヘシ

此罪モ亦親告罪ノ一ナレトモ他ノ親告罪ノ如ク親屬ノ告訴ヲ以テ足レリトセス必ラス被害者即チ本夫ノ告訴アルコトヲ要ス蓋シ猥褻強姦等ノ場合ハ被害者其人ノ名譽ノミナラス一家ノ名譽ヲ保護スルノ意ヲ以テ之ヲ親屬罪トシタルナリ故ニ其犯罪事實ノ世上ニ發表セラル、モ寧ロ犯人ヲ罰セシムルヲ可トスルカ又ハ犯人ノ非行ハ之ヲ忍フモ耻辱ト爲ル事實ヲ公ニセサルヲ可トス

ルカヲ決斷スルハ被害者本人ノミナラス其親屬ニ於テモ亦之ヲ決斷スルノ能力アリ殊ニ幼者ニ對スル猥褻姦淫ノ如キ場合ニハ其親屬之ヲ決斷セサルヘカラス然レトモ有夫姦ニ付テハ一家ノ名譽ヲ保護スルヨリモ寧ロ夫婦間ノ關係ヲ保護スルヲ主トス故ニ之カ告訴ノ權ヲ本夫ニノミ與ヘタルナリ

有夫姦ノ親告罪タルニ付キ學者間ノ問題ト爲レルハ姦婦又ハ姦夫ノ死去シタルトキハ尙ホ告訴スルコトヲ得ルヤ否ヤト云フ是ナリ此問題ニ付キ佛國學者ノ說ヲ按スルニ其場合ヲ區別スル說多數ヲ占ムルカ如シ即チ姦夫死去シタル場合ニハ尙ホ姦通ヲ告訴スルコトヲ得ルモ姦婦死去シタルトキハ告訴スルコトヲ得スト云ヘリ此說ノ理由トスル所ハ曰ク有夫姦ノ罪ヲ構成スルニハ有夫ノ婦タルコトヲ要ス婦死去シタルトキハ自ラ辯護スルコトヲ得サルカ故ニ果シテ姦罪ヲ犯シタルヤ否ヤヲ知ルヘカラス假令姦夫ハ姦通ノ事實ヲ自白スルモ故ラニ婦ノ名譽ヲ毀損スルノ惡意ヲ以テシタルモ知ルヘカラス其他ノ證據アルモ其捏造ニ係ラサルヲ保セス故ニ婦ヲシテ辯護セシムルニ非サレハ片言ヲ以テ斷スヘカラス之ニ反シテ姦夫ノ死去シタルトキハ姦夫モ亦自ラ辯護ス

ルコトヲ得サルモ有夫ノ婦ニシテ姦通シタルコトヲ自白スル以上ハ相姦者ノ何人タルコトヲ明ニ指名スルコトヲ要セス故ニ之ヲ罰スルモ死者ノ名譽ヲ害セスト此說一理アルニ似タリト雖トモ余ハ之ニ賛同スルコト能ハス若シ死者ニ對シテ刑ヲ宣告スルト同一ナルカ故ニ姦婦死去シタルトキ告訴スルコトヲ得スト言ハ余ハ答ヘテ言ハン其宣告ハ姦夫ニ對シテ爲スモ人ニシテ死シタル姦婦ニ對スルモノニアラス若シ又本夫姦通ヲ告訴スルコトヲ得サルハ證據上ノ理由ニ基クト云ハ、姦婦逃亡シタルトキモ亦姦夫ニ對シテ刑ヲ宣告スヘカラスト謂ハサルヲ得ス然レトモ何人モ未タ然ク斷定シタル者アルヲ聞カス要スルニ相姦者ノ一方死去スルモ之カ爲メニ本夫ノ告訴權ヲ失フモノニアラサルナリ

尙ホ一問題アリ相姦者ノ一方ノミニ對シテ告訴シタルトキハ他ノ一方ニ對シテモ亦訴追スヘキヤ否ヤ若シ婦ヲ告訴シタルトキハ姦夫ニ對シテモ亦公訴ノ起ルハ論ヲ俟タス何トナレハ本夫ニ告訴權ヲ與ヘタル理由ハ夫婦間ノ關係ヲ保護スルカ爲メニシテ本夫既ニ婦ニ對シテ之ヲ告訴スル以上ハ亦姦夫ニ對シテ

モ告訴シタルモノト看做スヘケレハナリ之ニ反シテ姦夫ノミニヲ告訴シタルトキハ姦夫ノミニヲ罰シテ姦婦ハ之ヲ罰セスト云フコトヲ得ルカ如シ何トナレハ本夫姦夫ヲ告訴シタルハ一家ノ名譽ヲ傷ケルアルモ寧ロ之ヲ罪ニ陷ル、ニ若カスト思惟シテ爲シタルモノナレトモ婦ヲシテ困苦ヲ嘗メシムコトヲ欲セス又其姦通ノ爲メニ夫婦間ノ關係ヲ亂ルコトヲ欲セサレハナリ然レトモ余ヲ以テ之ヲ視レハ何レノ場合ニ於テモ相姦者ノ一方ヲ告訴シタルトキハ併セテ他ノ一方ヲモ告訴シタルモノトシ共ニ之ヲ罰セサルヲ得ス第三百五十三條ニ依レハ有夫ノ婦ノ姦通ハ其相姦者モ共ニ罰スルコト、セリ故ニ若シ本夫其婦ノ姦通ヲ宥恕セントセハ則チ全ク告訴セサルニ若カス既ニ一方ニ對シテ告訴シタルトキハ其姦通ノ事實ヲ告訴シタルモノニシテ事件全体カ公訴ニ繋ルモノトス第三百五十三條第二項但書ニ曰ク但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシト是レ當然ノ規定ナリ

重婚罪

第五 重婚ノ罪

此罪ヲ構成スルニハ左ノ二條件ヲ要ス

刑法(各論)

第一 婚姻ヲ爲シタルコト

第二 婚姻ヲ爲シタル者既ニ配偶者アルコト

婚姻及配偶者ハ事實上ノモノタルヲ以テ足レリトセス法律上ノ婚姻及法律上ノ配偶者タルコトヲ要スルナリ若シ唯事實上ノ配偶者アル者婚姻シタルトキハ何等ノ罪ヲモ成サ、ルヘク又配偶者アル者事實上ノ婚姻ヲ爲シタルトキハ時トシテ有夫姦ノ罪成立スルコトアレモ本罪ハ成立セス

此罪ハ親告罪ニアラス一見スレハ重婚ノ罪モ亦親告罪ト爲スヘキカ如シ然ルニ之ヲ親告罪ト爲サ、リシハ蓋シ此罪ハ主トシテ公益ヲ保護スル爲メニ罰スルモノニシテ一私人ノ利害ヨリモ更ニ重ケレハナリ

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第一 誣告ノ罪

誣告ノ罪ヲ構成スル條件ハ左ノ二トス

第一 告訴又ハ告發ヲ爲スコト

第二 其告訴又ハ告發シタル事ノ虛妄ナルコト

第一 告訴又ハ告發ヲ爲スコトヲ要ス、法文ニハ告訴告發ノ文字ナシト雖トモ誣告罪ニ於テハ必ス刑事ノ訴追アルコトヲ要シ其訴追ハ告訴又ハ告發ニ因ルモノナラサル可カラス故ニ告訴告發ハ誣告ノ要素タリ而シテ其告訴又ハ告發ハ何人ニ爲スコトヲ要スルヤ或罪狀ヲ具シテ之ヲ告訴告發ヲ受クル職權ナキ者ニ告クルモ未タ告訴告發アリト云フ可カラス告訴告發ヲ受クルノ職權ヲ有スル者ハ檢察其他司法警察官トス或ハ府縣知事モ亦司法警察官ナルカ故ニ之ニ告訴告發ヲ爲シタルトキモ亦誣告ナルヤノ問題ヲ生セン余思フニ府縣知事ハ或場合ニ於テハ警察ノ補助ヲ爲ス者ナレトモ通常ハ然ラス林務官ノ如キ亦然リ此等異例ノ警察官ニ對シテ告訴告發スルモ以テ誣告罪ハ成立セス
告訴告發ハ必ラスシモ一定ノ方式ニ從フコトヲ要セス苟モ相當官吏ニ犯罪ノ事實ヲ告ケタルトキハ告訴又ハ告發アリト云フヘシ然レトモ私交上ノ談話ニ於テ犯罪ノ事實ヲ判事檢察等ノ職ニ在ル者ニ告クルモ告訴告發ト云フヘカラス此等ハ一ニ其事實ニ視テ以テ判別スヘキナリ

第二 其告訴告發シタル事ノ虛妄ナルコトヲ要ス其虛妄ハ告訴告發ノ全部ニ
 涉ルコトヲ要スルヤ又ハ一部分ノ虛妄ナルトキハ誣告罪ヲ構成スルニ足ルヤ
 ト云フニ余ハ其全部ノ虛妄ナルコトヲ要セス假令其一部分ニ係ルトキト雖ト
 モ爲メニ其責罰ヲ重大ナラシムルモノナルトキハ誣告ナリ例ヘハ竊盜ヲ強盜
 ナリトシテ告訴シタルトキノ如シ盜ハ事實ナリト雖トモ仍ホ誣告タルヲ免カ
 レス

誣告罪ニハ自首免刑ノ制アリ即チ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ誣告者自首シ
 タルトキハ本刑ヲ免ス其理由ハ偽證罪ニ付テ自首者ヲ免刑スルト同シ然レト
 モ偽證罪ニ付テハ裁判宣告前ニ自首シタル者ヲ免刑シ誣告罪ニ付テハ被告人
 ノ推問ヲ始メサル前ニ爲スコトヲ要ス此差異ハ其罪ノ性質ニ基クモノトス即
 チ偽證罪ハ裁判ノ信用ヲ害スル罪ニシテ裁判宣告前ニハ關係ナシ之ニ反シテ
 誣告罪ハ一個人ニ對スル犯罪ナルヲ以テ其推問ヲ始ムルト同時ニ被告人ヲ害
 スルモノナレハナリ

誣毀罪

誣毀ノ罪

誣毀罪ノ構成要素ヲ擧ケレハ左ノ如シ

第一 惡事醜行ヲ摘發スルノ事實アルコト

第二 其摘發ノ公然ナルコト

第一 惡事醜行ヲ摘發スルノ事實アルコトヲ要ス摘發トハ隱秘セルモノヲ暴
 表スルヲ云フ故ニ世人ノ熟知セル事實ハ假令惡事醜行ヲ暴表スルモ罪ト爲ラ
 ス例ヘハ裁判所ニ於テ證明セラレタル事實ノ如シ蓋シ裁判所ニ於テ證明セラ
 レタル事實ハ世ニ公表セラレタルモノト看做スヘキモノナリ

惡事醜行ト云フハ法律ニ反スル所爲ノミナラス道德ニ反スル所爲ヲモ包含ス
 而シテ事實上其惡事醜行ノ有無ヲ問ハス是レ至當ノ規定ニシテ誣毀ヲ罪トシ
 テ罰スルハ誣毀セラレタル者ノ名譽ヲ保護スルカ爲ナリ人ノ名譽ヲ保護スル
 ニハ唯其無實ノ惡事醜行ヲ摘發シタル場合ノミナラス眞實ノ惡事醜行ト雖ト
 モ之ヲ摘發シテ公ニシタルトキハ亦之ヲ保護セサルヘカラス蓋シ眞實惡事醜
 行アルトキト雖モ相當ノ職權ヲ有スル者ニアラサレハ之ヲ摘發スルコトヲ得
 サルモノナレハナリ但シ事實ノ有無ヲ問ハサルニ付テハ一ノ例外ノ場合アリ

即チ新聞紙ヲ以テ誹毀シタル場合ニシテ左ノ二條件ヲ證明シタルトキトス

一 其記述ノ公益ノ爲メタルコト

二 事實アルコト

右ノ二條件ヲ證明スルコト能ハサルトキハ之ヲ罰ス蓋シ此例外ノ規定ヲ爲シタル所以ハ新聞紙ヲシテ其目的ヲ達セシムルニ在リトス

第二 其摘發ノ公然ナルコトヲ要ス、第三百五十八條ハ其摘發ノ方法ヲ舉示セリ即チ(一)公然ノ演說(二)書類畫圖ノ公布(三)雜劇偶像ノ作爲是ナリ第一第二ノ方法ハ公然タルコト疑ナキモ第三ノ方法即チ雜劇偶像ヲ作爲スル場合ハ敢テ公然タルコトヲ要セサルカ如シ然レトモ之ヲ公ニスルニアラサレハ誹毀ノ罪ヲ成ザス亦必ス之ヲ公ニスルコトヲ要スルナリ
死者ニ對シテモ誹毀ノ罪アリヤ否ヤノ問題アリ死者ノ名譽モ亦之ヲ保護セサル可カラサルカ故ニ死者ニ對シテ誹毀ノ罪成立スヘシト爲スノ説モ其理ナキニアラスト確モ若シ誹毀ノ罪成立ストセハ世間全ク歴史ヲ作ルコト能ハサルニ至ルヘシ故ニ我刑法ニ於テハ特ニ規定ヲ設ケテ不都合ナカラシメシムルコトヲ期

セリ即チ誣告ニ出テタルトキニアラサレハ誹毀ト爲サス眞實ノ事跡ハ如何ナル惡事醜行ト雖モ之ヲ摘發スルコトヲ得ルナリ

第三 秘密漏告ノ罪

秘密漏告罪

此罪ハ一般人ノ犯シ得ルモノニアラスシテ或身分職業ヲ有スル者ノミ其主体タルヲ得即チ醫師、藥商、穩婆、代言人、辯護人、代書人、神官、僧侶等トス此等ノ身分職業ヲ有スル者ハ人ノ委託ヲ受ケタル事ニヨリテ陰私ヲ知ルモノナリ然ルニ若シ濫リニ其知得タル陰私ヲ漏ストキハ委託者ハ安心シテ陰私ヲ明スコトヲ得サルニ至ル故ニ其漏告ヲ罪トシテ罰シタルナリ

此罪ノ性質ヨリ考フトキハ名譽ニ關スル犯罪ト云フ能ハス何トナレハ其漏告ハ必ラスシモ公然タルコトヲ要セス苟モ之ヲ漏告シタルトキハ即チ之ヲ罰ス而シテ我立法者ハ公然ノ方法ヲ以テスルニアラサレハ其名譽ヲ傷クルニ足ラストスレハナリ然ラハ此罪ハ寧口安寧ニ關スルモノナルヘシ立法者ノ之ヲ此ニ規定セシハ其罪ノ性質大ニ誹毀ニ類スルモノアレハナリ
秘密漏告ノ罪モ亦親告罪ノ一トス其理由ハ他ノ親告罪ノ理由ト同

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

本節ハ被害者ノ身分ニ因リテ罪ヲ重クシタルニ止マリ特ニ之ヲ説明スルコトヲ須ヒス然レトモ第三百六十四條ノ規定ハ特別ノ犯罪ナルコトヲ注意スヘシ即チ子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル罪ニシテ此罪ハ之ヲ他ノ條節ニ規定ヲ見サル特種ノモノタリト雖モ亦敢テ説明ヲ要セスシテ明ナリ

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 窃盜ノ罪

窃盜罪

窃盜ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ三條件ヲ具備シサルヘカラス

- 第一 有体財産ナルコト
- 第二 他人ノ所有物ニシテ且他人ノ監督内ニ在ルコト
- 第三 窃取ノ事實アルコト

第一 有体動産ナルコトヲ要ス無体物ハ窃盜罪ノ目的物タルコトヲ得ス證書類ヲ窃取セシトキハ窃盜トシテ之ヲ罰スト雖モ此ハ權利即チ無体物ヲ窃取シタルモノトシテ罰スルニアラス權利ヲ證明スル所ノ有形物ノ窃取ヲ罰スルナリ而シテ其目的物ノ有体動産タルコトヲ要シタルハ窃盜罪ニハ窃取ノ事實アルコトヲ要スレハナリ蓋シ窃取ハ其物ノ有体動産ナリ場合ニ限リテ存スル事實ニシテ無体物又ハ不動産ヲ窃取スルコトヲ得ス建物又ハ土地ノ一部分ヲ窃取スル場合ハ之ナキニアラスト雖モ此場合ニハ不動産ノ窃取ニアラスシテ動産ノ窃取ト看做シテ之ヲ罰ス

第二 他人ノ所有物ニシテ且他人ノ監督内ニ在ルコトヲ要ス、窃盜ノ目的物ハ他人ノ所有物タルコトヲ要スルハ言フ俟タス然レトモ此條件ニ付テハ二ノ例外アリ

第一ノ例外ハ自己ノ所有物ト雖モ窃盜罪ノ目的物タルコトヲ得ル場合ニシテ即チ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタルトキ(第三百七十一條)トス其物件他人ノ監督内ニ在ルモ自己ノ所有ニ屬スルヲ以テ之

ヲ竊取スルモ通例竊盜罪成立スルコトヲ得サルモノナレトモ他人ノ擔保權ヲ保護シ若クハ官權ヲ保護スルタメニ之ヲ竊盜トシテ論スルナリ

第二ノ例外ハ第一ノ場合ト反シ他人ノ所有物ヲ竊取スルモ竊盜罪ノ成立セザル場合ナリ即チ祖父母、父母、夫妻、子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタルトキ是ナリ(第三百七十七條)此例外ヲ設ケタル理由ハ此等ノ親屬間ニ於テハ最も親密ナル關係アルモフナルニ尙ホ竊盜ノ罪アリトシテ之ヲ罰スルトキハ却テ親屬間ノ平和ヲ破ルニ至ル即チ公益ヲ保護スルヨリモ寧ロ私益ヲ保護スルノ必要大ナルモノアレハナリ

然レトモ此等ノ親屬ノ關係ヲ有セサル他人共ニ之ヲ犯シタルトキハ其者ニ對シテハ右ノ理由ヲ適用スルコト能ハサルモノナリ故ニ法律ハ共犯者カ財物ヲ分チタルト否トヲ區別シ之ヲ分チタルトキハ竊盜ヲ以テ論シ否サルトキハ亦其罪ヲ論セサルモノトセリ財物ヲ分チタル共犯者ヲ竊盜トシテ論スルハ其當ヲ得タリ何トナレハ親屬相盜ヲ論セサルハ親屬上ノ關係アルニ因ルモ他人共ニ之ヲ犯シテ財物ヲ分チタルトキハ之ヲ不論罪トスヘキ理由ナク且他人ハ獨

立ノ一罪ヲ成ス者ナレハナリ道理上ヨリ言フトキハ其財物ヲ分チタル場合モ亦當ニ竊盜ノ罪ヲ問フヘキナリ何トナレハ竊盜ニ於テハ犯人其所爲ニ因リテ自己ニ利益スルコトヲ必要トセス又之ヲ罰スルモ決シテ親屬間ノ關係ヲ破ルノ恐アラサレハナリ然ルニ立法者ノ財物ヲ分チタル場合ノミヲ論シ之ヲ分チサルトキハ他人モ亦共ニ無罪ト爲シタルハ蓋シ親屬間ノ財產ハ相互ニ共有スルモノナリトノ思想ニ基因セシニアラサルナキヲ得ンヤ殊ニ兄弟姉妹ノ相盜ヲ不論罪トスルニハ同居ヲ必要トシタルカ如キハ亦以テ立法者ノ思想ヲ推知スルニ足レリ若シ然リトセハ之ヲ罰セザリシ理由ハ解スルコトヲ得ルモ余ハ此理由ヲ是認スルコト能ハサルナリ

親屬相盜ニ付キ尙一問題アリ即チ其竊取ニ係ル財物タルコトヲ知テ之ヲ買受ケタル者ハ贓物ニ關スル罪トシテ論スルコトヲ得ルヤ否ヤ是ナリ此ハ從來解釋者間ノ一問題ナレトモ余ハ贓物ニ關スル罪トシテ論ス可キモノナルコトヲ疑ハス其理由ハ已ニ述ヘタル如ク親屬相盜ノ共犯者他人ナルトキハ其罪ヲ論スヘキモノナルニ立法者ハ明文ヲ以テ或場合ハ例外トシテ之ヲ罰セス贓物ニ

關スル罪ハ殆ト竊盜ノ共犯ニ類スルモノナリ故ニ若シ立法者ニシテ親屬相盜ニ係ル財物ヲ買受ケタル者ハ其罪ヲ論セサルモノトスルノ意ナランニハ共犯ノ場合ニ於ケルカ如ク特ニ明文ヲ置キテ之ヲ規定スヘキノ理ナリ然ルニ此規定ナキハ即チ之ヲ罰スルノ意タルヲ知ルヘシ加之立法上ヨリ考フルモ此所爲ハ多少竊盜ヲ獎勵スルモノニシテ親屬間ノ竊盜ハ之ヲ不論罪トスルモ決シテ惡ム可キモノニ非ストモ故ニ之ヲ獎勵スル所ノ所爲ハ須ク之ヲ罰スヘキナリ竊盜ノ目的物ハ他人ノ所有物タルコトヲ要スルノ條件ニ付キ起ル所ノ一問題ハ共有者ノ一人カ其共有物ヲ竊取シタルトキハ竊盜ナルヤ否ヤト云フ是ナリ余ハ此問題ニ付テ亦竊盜ノ罪アルコトヲ信シテ疑ハサルナリ何トナレハ共有者ハ其共有物ニ付キ一部分ノ權利ヲ有スト雖トモ他ノ一部分ニ付テハ權利ヲ有セス他人ノ所有物タレハナリ

竊盜ニハ他人ノ所有物タルノミヲ以テハ未タ足レトモ其物件ハ他人ノ監督内ニ在ルコトヲ要ス他人ノ所有物ト雖トモ自己ノ監督内ニ在ルトキハ之ヲ竊取スルノ事實ナカル可ク之ヲ費消シタルトキハ受寄物費消ノ罪ヲ成スヘシ

或ハ監督ノ語ヲ避ケテ故ラニ占有ノ語ヲ用井ル者アリ蓋シ論者ハ單ニ自己ノ監督内ニ在ル物ヲ竊取スルトキハ仍ホ竊盜ノ罪アル可シト爲レ其一例トシテ家僕カ主家ノ財物ヲ竊取シタル場合ヲ舉ケ論シテ曰ク家僕ハ主命ヲ受ケテ其財物ヲ監督スルモノナリ然ルニ仍ホ竊盜ノ罪アル所以ノモノハ之ヲ占有セザレハナリト余モ亦此場合ニ竊盜罪成立スルコトヲ信ス然レトモ是レ占有權ナキカ故ニアラスニテ監督セサレハナリ若シ監督權ヲ有スル婢僕ナルカ竊盜ヲ以テ論セサルナリ又例ハ錠ヲ施シタル箆筒ノ寄託ヲ受ケタル者之ヲ開キテ財物ヲ取出シタルトキハ竊盜ナルヤ否ヤノ疑問アリ論者ハ受託者之ヲ監督スルモ占有セサルカ故ニ亦竊盜ノ罪アリト言ヘリ然レトモ余ハ竊盜ノ罪ナク場合ニヨリテハ受託物費消ノ罪アリト思考ス何トナレハ此場合ニハ唯箆筒ノミヲ監督スルモノニアラスニテ在中品ヲモ併セテ監督スルモノナレハナリト類似セル他ノ例ヲ示セハ封金ノ寄託ヲ受ケタル者之ヲ費消シタル場合トス此場合ニハ受託物費消罪タルコト疑ナシト雖モ論者ノ說ニ從ヘハ金錢ハ之ヲ占有セサルカ故ニ竊盜罪ナリト言ハサルヲ得ス論者他ノ例ヲ示シテ曰ク火ノ

番人カ倉庫ヲ破リテ在中品ヲ窃取シタルトキハ窃盜タルコト疑ナカル可シ然レトモ其倉庫ト在中品トハ併セテ番人ノ監督内ニ在リト謂フヘク箆等ニ錠ヲ施シテ寄託シタル場合ト毫モ區別スヘキ點ナキニアラスヤト余ノ見ル所ハ之ニ反シ後例ノ場合ハ前例ノ場合ト同シカラス番人ハ唯倉庫ノ外部ノミヲ監督シ其内部マテ監督スルモノニアラス故ニ倉庫内ノ物品ヲ窃取シタルトキハ窃盜罪ヲ構成スヘシ要スルニ此等ノ點ハ事實問題ニシテ之カ爲メニ監督ノ語ヲ用非ルヲ不可トスルニ足ラサルナリ

第三 窃取ノ事實アルコトヲ要ス、窃取トハ所有主ノ知ラサルニ乘シテ取ルノ謂ナリ此ノ如ク解スレハ頗ル明瞭ナルニ似タリト雖モ仍ホ種々ノ問題ヲ生ス先ツ第一ニ起ル所ノ疑問ハ如何ナル所爲ヲ取ト云フカ是ナリ余ハ之ヲ解シテ曰ハン物ヲ他人ノ監督ヨリ離シテ之ヲ我監督内ニ置クノ所爲ヲ謂フト佛國ニ於ケル學説及判決例ハ皆之ニ一定セリ而シテ一タヒ我監督内ニ置キタル以上ハ其監督ヲ繼續スルコトヲ要セス直チニ其物ヲ毀棄シ若クハ人ニ奪取セラレハモ窃盜罪ノ構成ニ影響ヲ及ホスコトナシ

窃盜ニハ人ノ監督内ニ在ル物ヲ移シテ之ヲ我監督内ニ置クノ所爲アルコトヲ要スルカ故ニ若シ其物ヲ所有主ノ住宅内ニ隠シ置キタルトキハ窃取ノ事實アラサルヲ以テ窃盜ノ罪ナシト論スル者アリ然レトモ此斷定ハ未タ其當ヲ得ス所有主ノ住宅内ニ隠シタルトキト雖モ既ニ窃取タルコトアルヘク又未タ窃取ト云フヘカラサルコトアルヘシ例ヘハ下婢主人ノ所有物ヲ取リテ之ヲ其家宅内ニ隠シ置キタルカ如キ場合ニハ窃盜既遂犯タルコト毫モ疑ヲ容レヌ然レトモ倉中ノ米ヲ窃取セントスル者其一俵ヲ倉外ニ持出シ置キ更ニ倉中ニ忍入リタル場合ニハ窃盜ノ未遂ト云ハサルヲ得ス此例示ノ場合ハ共ニ其物ノ所在ヲ移轉シテ仍ホ其所有主ノ家屋内ニ置キタル場合ナルモ一ハ既遂ト爲リ一ハ未遂トシ即チ其事實ニ依テ之ヲ斷定スヘク所有主ノ家屋内ニ在ルト否トヲ以テ區別スルノ不可ナルヲ知ルヘシ而シテ前二例ノ場合ニ既遂ト未遂トノ分ル、所以ハ第一ノ場合ハ既ニ之ヲ自己ノ監督内ニ移シタルモ第二ノ場合ハ未タ之ヲ自己ノ監督内ニ移シタルモノニアラサレハナリ

窃取ノ着手ハ何レノ時ニ在ルカト云フニ余ノ信スル所ニ依レハ其窃取セント

欲スル物品ニ觸レタルヨリ窃取ノ着手アリト云フヘシ何トナレハ前述ノ如ク
窃取トハ物ヲ自己ノ監督内ニ移スノ所爲ニシテ其物ニ觸レタルトキハ即チ之
ヲ自己ノ監督内ニ移サントスルモノナレハナリ然レトモ此解釋ハ實際ニ採用
セラレサルナリ

以上ハ一般通常ノ窃盜罪ニ付テ説キタルナリ其他窃盜ニハ其所爲方法場所又
ハ目的物ニ因リテ種々ノ別アリ

第一 第三百六十八條ニ規定セル窃盜

門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り窃盜ヲ犯シタル者ハ
通常ノ窃盜ヨリモ重ク罰セリ此事ハ既ニ家宅侵入ノ罪ニ付テ説キタレハ其説
明ヲ参考スヘシ

第二 第三百六十七條ニ規定セル窃盜

第三百六十七條ニ規定セルモノハ水火震災其他ノ變ニ乘シテ犯シタル窃盜ニ
シテ亦重ク之ヲ罰セリ之ヲ重ク罰シタル理由ハ(第一)水火震災等ノ事變アルト
キハ最モ所有權ヲ保護スルノ必要アリ(第二)事變ニ際シテ窃盜ヲ行フ者ハ之ヲ

通常ノ窃盜ニ比スレハ其惡意ノ程度大ナリ蓋シ人ノ不幸ニ乘シテ更ニ不幸ヲ
加フルモノナレハナリ

第三 持兇器窃盜(第三百七十條)

此ニ謂フ所ノ兇器ハ用法上ノモノタルト性質上ノモノタルトヲ區別セス苟モ
人ノ身体生命ニ危害ヲ加フ可キ物件ハ皆兇器トス蓋シ此窃盜ヲ重ク罰シタル
ハ其危險唯財產ニ止マラス人ノ身体生命ニモ危害ヲ感セシムルニ由ル而シテ
身体生命ニ對シテ危險アルハ性質上ノ兇器ノミナラス用法上ノ兇器ヲ携帯シ
タル場合ニモ亦存スレハナリ

第四 田野ニ於ケル窃盜(第三百七十二條)

田野ニ於テ穀類菜果其他ノ產物ヲ窃取シタル者ハ通常ノ窃盜アリモ輕シ之ヲ
輕クシタル理由如何或點ヨリ視レハ却テ之ヲ重クスルノ理アルニ似タリ何ト
ナレハ田野ニ於テハ嚴重ニ看守スルコト能ハサルヲ以テ法律ハ最モ其所有權
ヲ保護セサルヲ得サレハナリ然ルニ之ヲ輕クシタルハ畢竟其損害ノ度輕微ナ
ルニ因ラン何トナレハ穀類菜果ハ多ク窃取スルコト能ハサレハナリ是故ニ若

シ一タヒ人工ヲ加ヘタル物ニシテ容易ニ多數ヲ窃取スルコトヲ得ルトキハ第三百七十二條ヲ適用スヘカラス宜シク通常ノ窃盜ニ間フヘシ例ヘハ已ニ稻ヲ蒔リ置キタルトキノ如シ

第五 山林ニ於ケル窃盜(第三百七十三條)

此種ノ窃盜ハ田野ニ於ケル窃盜ト其刑相均シク其理由亦相同シ

第六 川澤、池沼、湖海ニ於ケル窃盜(同條)

是亦前項ト同一ナリ

第七 牧場ニ於ケル窃盜(第三百七十四條)

此種ノ窃盜ハ田野、山林、川澤等ニ於テ穀菜、竹木、礦物其他ノ產物ヲ窃取シタルモノニ比スレハ其刑重シ是他ナシ牧畜ノ獸類ハ通例其價值貴キモノナレハナリ終ニ一言スヘキハ現行特別法ニ於テ特ニ家屋外ノ窃盜ヲ規定シ之ヲ輕ク罰スルコト是ナリ此規定ハ改正草案ニモ亦之アリ是田野、山林、牧場等ニ於ケル窃盜ヲ輕ク罰スルト其理由同一ナルヘシ然レトモ佛國等ニ於テハ特ニ此種ノ窃盜ヲ重ク罰セリ其故ハ家屋外ニ於テハ最モ所有權ヲ保護スルノ必要アルニ由ル

余ハ我現行法ニ於テ特ニ之ヲ輕ク罰シタルヲ是認スルコト能ハス窃盜ノ最モ惡ム可キハ拘摸ナリ白晝公道ニ於テ隙ニ乘シテ窃盜ヲ犯シタル者ニシテ夜陰家宅ニ忍入ル者ニ比シテ其刑輕微ナルノミナラス、贓ヲ數ヘテ其刑ヲ科スルカ故ニ拘兒ハ幾十回罪ヲ犯シ幾百圓ノ贓ヲ得ルモ一回五圓ヲ超過セサルトキハ數罪俱發ノ規定ニ由リ最輕ノ刑ヲ科セラレ、ニ過キス實際上其刑ノ權衡ヲ失スルヤ大ナリ

窃盜罪ニ一ノ加重法即チ通常ノ窃盜及第三百六十七條、第三百六十八條ニ規定セル窃盜ヲ二人以上共ニ犯シタルトキハ各一等ヲ加フ是其犯罪ノ容易ナルト其危險ノ度ノ大ナルトニ由ル

強盜罪

第二節 強盜ノ罪

強盜罪ノ構成要素ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 有体動産ナルコト

第二 其物件他人ノ所有ニ屬シ且他人ノ管理内ニ在ルコト

刑法(各論)

第三 暴行脅迫ノ手段ヲ以テスルコト

第四 強取ノ事實アルコト

右第一第二ノ條件ニ付テハ竊盜罪ニ付テ述ヘタル所ト同シケレハ今復々爰ニ贅セス

第三 暴行脅迫ノ手段ヲ以テスルコトヲ要ス、此條件ハ之ヲ竊盜罪ト區別スル標準ノ一ナリ脅迫トハ刑法上脅迫罪トシテ罰スル所爲即チ他人ノ身体財産ニ害ヲ加ヘムト言ヒ若クハ其形容ヲ示スヲ謂フ而シテ刑法ハ財産ニ對スル脅迫ハ其害ノ多少ヲ問ハス之ヲ罰セリ此ニ謂フ所ノ脅迫モ亦財産ニ對シ些少ノ害ヲ加ヘムト脅迫シタル場合ヲモ包含スルヤ否ヤ例ヘハ金千圓ヲ出サレハ此茶碗ヲ毀壞セムト脅迫シタル場合ノ如キ尙ホ脅迫取財即チ強盜罪成立スルヤ否ヤ是ナリ余ヲ以テ之ヲ見ルニ右ノ如キ其脅迫スル所ノ加害ノ度小ナル場合ニハ脅迫罪ハ成立セリト謂フヲ得ヘシト雖モ強盜罪アルコトナシ暴行トハ身体ニ對シ不正ノ手段ヲ以テ害ヲ加フル所爲ニシテ毆打殺傷等ヲ云フ然レトモ財物ヲ得ルニ適當ナル手段タルヲ要ス彼ノ強姦ノ如キ亦暴行タル

ニ相違ナシト雖モ財物ヲ強取スルノ手段ト云フヲ得ザルカ故ニ所謂本條ノ暴行中ニ入ラサルナリ

第四 強取ノ事實アルコトヲ要ス、此要件ハ強盜ト竊盜トヲ區別スルニ最モ必要ナルモノトス強取トハ其意ニ反シテ之ヲ取ルノ謂ナリ故ニ竊盜ノ如ク財物ヲ管理スル者ノ知ラサルニ乘シテ之ヲ取ルニアラス其管理者之ヲ知り且之ヲ與フルコトヲ欲セサルモ強テ之ヲ取ルノ所爲ナリ此條件ヲ以テ竊盜ト強盜トヲ區別スルノ標準トセハ則チ人ノ面ヲ毆チ其驚愕セルニ乘シテ懷中ノ金圓等ヲ奪フカ如キ所爲ハ竊盜タルコト勿論ナルヘシ何トナレハ此場合各ニ於テハ暴行ニ因リ財ヲ取ルモノニシテ恰モ強盜ナルニ似タリト雖モ強取ノ事實アラサルハナリ又此論理ヲ推シテ考フレハ實際上最モ議論アル疑點ヲ判斷スルコトヲ得ム即チ或財物ヲ奪取セムカ爲メニ其所有者又ハ管理者ヲ殺害シテ而シテ後之ヲ奪取シタル場合ニハ強盜罪ヲ以テ論スヘキヤ否ヤト云フコト是ナリ此點ニ付テハ議論區々トシテ一定セス或ハ強盜罪トシ第三百八十條ニ依リテ處分スヘシト論スル者アリ或ハ其人ヲ殺シタル所爲ハ謀殺ヲ以テ論スヘシ

ト謂フ者アリ大審院ノ判例ハ後説ヲ採レリ余モ亦此説ヲ以テ其當ヲ得タルモ
 ノト信ス何トナレハ此場合ニ於テハ第一第二ノ要件ハ之アリ又廣ク暴行ノ語
 ヲ解スレハ第三條件モ亦之ヲ具備スト雖モ所有者又ハ管理者ノ意ニ反シテ強
 取スルノ事實アラサレハナリ然ラハ財物ヲ取りタル所爲ハ如何ニ之ヲ處分ス
 ヘキヤ此點ニ付テハ其場合ヲ分タサルヘカラス即チ其物件カ尙ホ他ノ者ノ管
 理内ニ在ルトキハ竊盜罪タルヘク又或場合ニハ其他ノ犯罪ヲ成スコトアルヘ
 キモ若シ何人モ之ヲ管理スル者ナキカ又ハ當然自己ノ管理ニ屬ス可キトキ例
 ヘハ相續人カ被相續人ヲ殺シタル場合ノ如シハ無罪ト謂ハサルヲ得ヌ要スル
 ニ此ノ如キ場合ニハ強盜罪ノ成立スルコトアラサルナリ
 藥酒等ヲ用非人ヲ昏迷ヒシメ其財物ヲ盜取シタル所爲ハ暴行ノ手段ヲ用非メ
 リト謂フヲ得ヘキモ強取ノ事實アリト謂フヘカラス然レトモ法律ハ尙ホ其意
 ニ反シテ財物ヲ取りタルモノニ準シ強盜ヲ以テ論セリ(第三百八十三條是又殺
 後ニ財物ヲ取ルモ強盜ニアラスト謂フ論決ノ一證據ト爲スヲ得ヘシ
 強盜罪ニハ加重ノ原因アリ即チ左ノ二トス(第三百七十九條)

一 二人以上共ニ犯シタルトキ

二 兇器ヲ携帯シテ犯シタルトキ

是レ此二ノ場合ハ犯スニ易ク防クニ難ケレハナリ然レトモ門戶牆壁ヲ踰越損
 壞シテ犯シタル場合ノ如キハ竊盜罪ニ付テハ特ニ加重ノ一原因ナルモ強盜罪
 ノ加重原因タラス蓋シ是等ノ所爲ハ暴行ノ一手段タレハナリ
 竊盜犯人カ其竊取シ得タル財物ノ取還ヲ拒ム爲メ暴行脅迫ヲ爲ストキハ直チ
 ニ之ヲ強盜ト謂フヘカラス何トナレハ強盜ハ財物ヲ得ムカ爲メニ暴行脅迫ヲ
 爲シ且之ヲ強取スルコトヲ要スルニ此場合ニハ財物ハ既ニ之ヲ竊取シ然シテ
 後ニ其暴行脅迫ヲ加フ即チ此財物ヲ得ムカ爲メナラス又強取ノ事實アラサレ
 ハナリ然レトモ其所爲頗ル強盜ニ類シ且加害ノ度相同シキヲ以テ之ヲ強盜ニ
 準シテ處罰セリ(第三百八十二條)
 強盜人ヲ死傷ニ致シ又ハ婦女ヲ強姦シタル者ハ數罪俱發ノ例ニ準セス殊ニ之
 ヲ重ク罰セリ(第三百八十條及第三百八十一條而シテ強盜已遂ナルトキハ何等
 ノ疑ヲモ生セスト雖モ強盜未遂ニシテ強姦又ハ死傷ノ成行アリタルトキハ如

何ニ之ヲ處分ス可キカ是學者間大ニ議論アル所ナリ然レトモ余ハ敢テ甚々困難ナル疑點トスルニ足ラスト思惟ス想フニ第三百八十條及第三百八十一條ノ罪ハ財産ニ對スルヨリハ寧ロ身体ニ對スル罪ニシテ強盜罪ト併犯シタルカ故ニ爰ニ之ヲ規定シタルニ過キス故ニ其未遂已遂ハ主トシテ此兩條ニ規定セル所爲未遂已遂ヲ以テ之ヲ決セサル可カラズ詳言スレハ強盜既遂ナルトキハ強盜未遂ナルモ尙ホ第三百八十一條ノ已遂トシテ處分スヘキナリ若シ此兩條ノ規定ニレテ強盜ニ因リテ云々トアラハ或ハ強盜罪ノ加重トシテ論シ得ヘク其未遂已遂ハ強盜ノ未遂已遂ヲ以テ論スルヲ至當トスヘシ然ルニ法文ニ強盜云々ト規定シタルハ其文字強盜犯人ヲ指スモノニ外ナラサルナリ斯ノ如ク解釋スレハ第三百八十條及第三百八十一條ノ犯罪ハ常ニ強盜罪ノ未遂又ハ已遂ト併犯スルモノト謂ハサルヲ得ス然レトモ此斷定ハ實際採用セラル、所ト同シカラサルナリ

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

遺失物隱匿罪

第一 遺失物隱匿ノ罪

遺失物隱匿ノ罪ハ左ノ條件ヲ以テ成立ス

- 第一 何人ノ管理ニモ屬セサル物件ナルコト
- 第二 物件ヲ拾得タルコト
- 第三 隱匿ノ所爲アルコト

第一 何人ノ管理ニモ屬セサル物件ナルコトヲ要ス、法文ニ「遺失及ヒ漂流ノ物品」トアルハ現ニ何人ノ管理内ニモアラサルノ謂ナリ此語ヲ然ク解釋スルトキハ種々ノ疑問ヲ決定スルコト難カラス解釋者或ハ其所有主ノ何人タルヲ知ルト否トニヨリテ之ヲ判定スヘシト説ケリ然レトモ其所有主ノ何人タルヲ知ルト否トヲ以テ遺失物ナルト否トヲ決スヘカラス友人ノ遺留シタル物ト雖モ未ダ直チニ寄託ヲ受ケタルモノト云フヲ得ス故ニ其物件ノ所有主ヲ知ルモ他ノ管理ヲ脱シタル物ナルトキハ尙ホ遺失物ト云フコトヲ得ヘシ

第二 物件ヲ拾得シタルタルヲ要ス、拾得トハ何人モ管理セサル物件ヲ我占有内ニ入ル、ヲ謂フ

第三 隱匿ノ所爲アルコトヲ要ス、條件ハ遺失物拾得ノ罪ト爲ル所以ニシテ所謂隱匿トハ法律上ノ手續ヲ履ミテ之ヲ官ニ申告セス又ハ所有主ニ還付セサルヲ謂フ凡ソ遺失物ヲ拾得シタル者ハ之ヲ其所有主ニ還付スルカ若クハ相當ノ手續ヲ履テ官ニ届出テサルヲ得ス是各國共ニ相同シキ規則ナリ然ルニ此手續ヲ爲サ、ルトキハ隱匿ノ所爲アルモノト謂フヲ得ヘシ第三百八十五條ニハ、隱匿シ所有主ニ還付セス云々トアルヲ以テ所有主ニ還付セス又ハ官ニ申告セサル外ニ尙ホ隱匿ノ所爲ヲ要スルカ如シト雖モ決シテ然ラス、所有主ニ還付セス云々ノ語ハ隱匿ノ語ヲ詳解シタルニ過キサルナリ

埋藏物隱匿罪

第二 埋藏物隱匿ノ罪
埋藏物隱匿ノ罪ニハ左ノ三條件ヲ要ス

- 第一 他人ノ所有地内ニ埋藏セラレタルコト
 - 第二 其物件ヲ發掘シタルコト
 - 第三 隱匿ノ所爲アルコト
- 以上ノ條件ハ殆ト遺失物藏匿罪ノ條件ト相同シク唯其異ナルハ第一條件即チ

家資分散ニ關スル罪

第四節 家資分散ニ關スル罪

本節ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ條件ヲ要ス

- 第一 家資分散ノ言渡ヲ受ケタル者タルコト
 - 第二 財産ヲ藏匿脱漏シ、隱匿ヲ藏匿毀棄シ、虛偽ノ負債ヲ増加シ、其他負債ヲ私償スル等ノ所爲アルコト
 - 第三 家資分散ノ際ニ於テスルコト
- 此諸條件ニ付テハ格別論スヘキモノナク唯一二ノ注意スヘキモノヲ示サムニ藏匿ハ差押前ニ之ヲ見脱漏ハ差押後ニ爲スヲ通例トス然レ、用必ラスシモ然ラス法律上賣渡ス可カラサル物ヲ賣リタルトキハ差押前ト雖モ尙ホ脱漏ノ所爲ト云フコトヲ得ヘキナリ

第三條件ノ「分散ノ際」ト云フ語ニ付テハ之ヲ解スルコト頗ル困難ナリ佛國ニ於テハ何時ヨリ何時マテヲ分散ノ際ト云フ可キニ付キ一定ノ規則アルモ我國ニハ其期間一定セス故ニ何レノ解釋說モ確乎タル證據アルニアラス余ノ信スル所ハ家資分散ヲ惹起スル執行ノ日ヨリ其計算ヲ終了スル時マテトスルヲ可トス然レモ或ハ分散ヲ爲サ、ルヲ得サルニ至リタル本案ノ裁判言渡アリシ時ヨリ起算スヘシト論スル者アリ甚タシキハ其訴訟ノ起リタル時ヨリ起算スルモノアリ然レトモ余ハ之ヲ狭ク解スルヲ至當トス何トナレハ我刑法ノ摸範タル佛國ノ法律ハ此ノ如キ長期間ニアラスシテ立法者ノ精神亦之ト同一ナルヘケレハナリ斯ノ如ク解釋スレハ第三百八十九條ニアル「分散決定ノ後」ト云フ語ト「家資分散ノ際」ト云フ語ト殆ト相同シキ意義ト爲リ法律ノ之ヲ分チタル所以ヲ失フノ不都合ヲ生スルカ如シト雖モ亦是其間自ラ差アルハ固ヨリ明カナリ家資分散前ト雖モ債務者カ虚偽ノ負債ヲ増加スルノ事情ヲ知リテ契約ヲ承認シ又ハ其媒介ヲ爲シタル者ハ亦一ノ犯罪ヲ成スモノトス(第三百八十六條第二項)

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ

關スル罪

詐欺取財罪

第一 詐欺取財ノ罪

詐欺取財ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ三原素ヲ必要トス

- 第一 有体動産ナルコト
- 第二 欺罔又ハ恐喝ノ手段ヲ用井ルコト
- 第三 騙取ノ事實アルコト

第一 有体動産ナルコトヲ要ス、窃盜及強盜ニ付テハ不動産ヲ犯罪ノ目的ト爲スコトヲ得スト雖モ不動産ノ騙取ハ之ヲ想像スルコトヲ得ヘク又債權ノ如キ無体物ヲモ騙取スルコトヲ得ルナリ故ニ詐欺取財ノ要素トシテ有体動産ナルコトヲ要スト云フハ妥當ナラサルニ似タリ然レトモ我刑法上ヨリ論スルトキハ有体動産タルコトヲ要スト謂ハサルヘカラス何トナレハ立法者ハ特ニ財物又ハ證書類ト云フ語ヲ用井而シテ不動産又ハ無体物ハ證書ナル有体物ヲ以テ

之ヲ代表セシメタレハナリ然レトモ此規定ハ其當ヲ得タルモノト謂フ可カラ
ス何トナレハ證書類ヲ騙取スルコトナクシテ不動産若クハ無体物ヲ騙取スル
コトハ往々ニシテ之アレハナリ

第二 欺罔又ハ恐喝ノ手段ヲ用井ルコトヲ要ス欺罔トハ人ヲシテ錯誤ニ陥ラ
シムル爲メニ用井ル或手段ヲ謂フ即チ虚妄ノ事實ヲ捏造シ若クハ實際ノ事實
ヲ誇張スルカ如キ是ナリ

恐喝トハ人ヲシテ畏怖ノ念ヲ生セシムルノ所爲ヲ謂フ人ヲシテ畏怖ノ念ヲ生
セシムルノ所爲ニ脅迫ト稱スルモノアリ脅迫ノ手段ヲ用井ルトキハ均シク人
ヲシテ畏怖セシムルモ詐欺取財トハ爲ラス故ニ脅迫ト恐喝トハ之ヲ區別スル
コトヲ必要トス或ハ其人ノ畏怖スル危険ノ生スル時ヲ以テ之ヲ區別シ危険現
在ニ迫ラムトスルトキハ脅迫ニシテ將來ニ屬スルトキハ恐喝ナリト論スル者
アリ然レトモ是未タ其區別ノ標準ト爲スニ足ラス例ヘハ甲乙ニ告クルニ今同
行シタル人ハ汝ヲ捕縛セムトスル者ナリトノ事ヲ以テスルトキハ其危険ハ現
在ニ迫レルモノナレトモ此ハ脅迫ニアラスシテ恐喝ノ手段ナリ或ハ其危害ヲ

加フル者ノ犯人ダルト第三者タルトヲ以テ之ヲ區別セムトスル者アリ是或場
合ニ於テハ標準ト爲スニ足ルヘシト雖モ決シテ一般ノ標準ト爲スヘカラス例
ヘハ巡查ナリト偽リ人ヲ逮捕セムト言フトキハ脅迫ニアラスシテ恐喝ナリ然
レトモ論者ノ説ニ從ヘハ犯人自ラ危害ヲ加ヘムトスルニアルヲ以テ脅迫ナリ
ト謂ハサルヲ得ス要スルニ學理上ヨリ劃然タル區別ノ標準ヲ發見スルコトハ
容易ナラス然レトモ以上述ヘタル所ニヨリテ脅迫ト恐喝トノ間ニ存スル區別
ハ之ヲ知ルコトヲ得ム即チ脅迫ニ因テ加ヘムトスル危害ハ多クハ現在ニ迫ル
モノニシテ其將來ニ屬スルトキハ概シテ恐喝ナリ又犯人自ラ危害ヲ加ヘムト
スルトキハ脅迫ト爲ル場合多ク第三者カ將來ニ於テ加ヘムトスル危害ヲ告ケ
畏怖セシメタル場合ハ恐喝ナルヲ常トス而シテ刑法ハ特ニ脅迫ヲ罪トシテ罰
シ條文ニ其方法ヲ列記セリ故ニ刑法ニ規定セル所爲ヲ爲シタル者ハ脅迫ニシ
テ其他ノ所爲ヲ以テ畏怖ノ念ヲ起サシメタル場合ハ恐喝ナリト謂フモ不可ナ
キナリ

恐喝ハ其事實ノ虚偽ナルコトヲ要スルヤ否ヤ余意フニ眞實ノ事實ヲ告クルモ

他ヲシテ畏怖セシメムトスルノ意ヲ以テスルトキハ尙ホ之ヲ恐喝ト云フヘシ
 例ヘハ毆打ノ被害者犯人ニ對シテ汝ノ罪跡既ニ明白ナリ汝余ニ金若干ヲ與ヘ
 ヲ若肯セサレハ余ハ直チニ汝ヲ告訴シ獄窓ニ呻吟セシム可シト此場合ニ於テ
 其告クル所ノ事實ハ眞實ナルモ恐喝タルヲ免カレサルコトアリ即チ恐喝タル
 ト否トハ事實問題ニ屬シ被害者ノ之ヲ告訴セント云フハ虛妄ニシテ唯金圓ヲ
 得ムトスルノ手段タル場合ニハ恐喝ナリ但其金圓ハ被害者カ當然得ヘキ賠償
 ナルトキハ縱令其手段トシテ虛妄ノ事ヲ告グルモ決シテ恐喝ト爲ルモノニア
 ラサルナリ

第三 騙取ノ事實アルコトヲ要ス騙取トハ錯誤又ハ畏怖ニ因テ承諾セシメ財
 物ヲ取ルヲ謂フ騙取ト強取トハ殆ト相似タリト雖モ強取ハ財物ヲ與フルニ付
 キ更ニ承諾ナク騙取ハ之ニ反シテ承諾アルモノナリ唯其承諾カ錯誤ニ因リ若
 クハ畏怖ニ因リテ與ヘラレタルノ故ヲ以テ正當ナラスト爲スノミ是故ニ詐欺
 取財ノ所爲ハ僅ニ模様ヲ異ニスレハ即チ罪ト爲ラス民事上ノ詐欺ニ止マルコ
 トアルヘシ

刑事上ノ詐欺ト民事上ノ詐欺トヲ區別スルノ標準ヲ釋ヌルニ錯誤又ハ畏怖ヲ
 生セシメタル所爲ノ結果如何即チ財物騙取ヲ免カル、ノ難易ヲ以テ之ヲ區別
 スルノ外ナカル可シ即チ刑法上ノ保護ヲ受クルニアラサレハ騙取ヲ免カル可
 カラサルトキハ刑事上ノ詐欺タルヘク之ニ反シテ必ラスシモ刑法上ノ保護ヲ
 待タス一個人之ヲ防クコトヲ得ルモノハ民事上ノ詐欺タリ今其一二ノ例ヲ示
 サハ物品ノ品質價格ヲ偽リ之ヲ買ハシムルトキハ詐欺取財ノ罪アルニ似タリ
 ト雖モ然ラス何トナレハ此ノ如キ所爲ハ買客ニ於テ少シク注意ヲ加フレハ容
 易ニ之ヲ免カル、コトヲ得ヘキヲ以テ敢テ刑法上犯罪ノ所爲トシテ罰スルノ
 必要アラサレハナリ然レトモ若シ其詐術ノ巧妙ニシテ尋常人ノ注意ヲ以テハ
 容易ニ看破スルコト能ハサル場合ニハ之ヲ罪トシテ罰セサルヘカラス蓋シ一
 個人ノ力之ヲ防クコト能ハス刑法ノ制裁ヲ以テ保護スルノ必要アレハナリ此論
 理ヲ推シテ考フレハ偽造ノ古金銀貨ヲ以テ金圓ヲ借入レタル所爲ハ未タ必ラ
 スシモ罪トシテ罰ス、可カラズ貸主ノ損害ハ自己ノ不注意ニ基ツクモノナレハ
 ナリ然レトモ若シ或手段ヲ以テ其眞僞ノ検査ヲ妨クルトキハ詐欺取財ノ罪成

立スヘシ之ヲ要スルニ刑法上ノ詐欺ナルヤ將タ民事上ノ詐欺ナルヤハ事實ノ問題タルヘシト雖モ之ヲ區別スルニハ其詐欺ハ刑法ノ保護ヲ待ツニアラサレハ免カル可カラサルヤ否ヤヲ以テスヘキナリ

刑法ハ尋常ノ詐欺取財ノ外尙ホ三ノ場合ヲ規定セリ

第一 第三百九十一條ノ場合

本條ニ規定セル罪ハ犯人自ラ欺罔又ハ恐喝ノ所爲ヲ加ヘタル場合ニアラス故ニ一見スレハ詐欺取財ノ罪ヲ成立セサルモノ、如シ然レトモ其所爲ハ幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ財物證書類ヲ授與セシムルモノニシテ幼者又ハ喪心者ハ容易ニ其害ヲ被フルヘク其力能ク之ヲ防クヘカラス必ラス刑法上ノ保護ヲ待タサルヲ得ス而シテ其授與ハ完全ナル承諾ニ因ルモノニアラス是之ヲ詐欺取財トシテ論スル所以ナリ

第二 第三百九十二條ノ場合

該條ニ曰ク「物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス」ト其欺罔ノ手段ヲ施シ不當ニ利得シ

冒認罪

タルハ尋常ノ詐欺取財ト同シト雖モ欺罔ノ手段ヲ以テ承諾ヲ與ヘシメタルニアラス其物ヲ交付スルニ當リテ欺罔ノ手段ヲ施シタルモノナリ故ニ騙取ノ事實アルコトナク尋常ノ詐欺取財ト同シカラサルナリ

第三 第三百九十三條ノ場合

第三百九十三條ハ冒認ノ罪ヲ規定セリ冒認ノ所爲ハ或點ヨリ視レハ殆ト詐欺取財ニ類セリ即チ他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル場合ニ於テハ其被害者ハ己レニ賣渡サレ又ハ交付セラレタル物件ナクシテ其代價代償物又ハ金錢ヲ取ラル、モノナルカ故ニ欺罔ノ手段ニ因リテ金圓ヲ騙取セラレタリト謂フヲ得ヘシ第二項ノ規定モ且之ト異ナラス故ニ立法者ハ之ヲ詐欺取財トシテ論シタルナリ

冒認ヲ詐欺取財トシテ論スレハ他ノ所爲ニシテ詐欺取財ヲ以テ論ス可キモノ往々之アラム例ヘハ竊盜ニ因リ又ハ詐欺ニ因リテ得タル物件ヲ自己ノ所有物ナリト稱シテ他ニ賣却シタルトキノ如シ蓋シ此場合ニ於テ買取主ハ其物ヲ取戻サル、ヲ以テナリ然レトモ贓物ハ犯人ノ手中ニ存シ冒認ノ場合ニハ其物ハ他

人ニ屬セルヲ異ナリトス此一點ハ異ナルモ冒認ノ所爲ヲ罪トシテ罰スル理由ヲ考フレハ贓物ヲ賣却シタル所爲モ亦宜シク詐欺取財トシテ罰スヘシ然ルニ第三百九十三條ノ規定ヲ按スルニ其物件他人ノ占有内ニ在ルコトヲ要スルヲ以テ贓物賣却ノ所爲ヲ冒認トシテ罰スヘカラサルナリ

第三百九十三條ノ規定ハ不必要ナリト論スル者アリ或ハ其規定ヲ不可ナリトシテ非難スル者アリ余ヲ以テ之レヲ見レハ不動産ノ冒認ハ詐欺取財ヲ以テ論スヘキコト勿論ニシテ特ニ之ヲ規定スルノ必要ナシト雖モ第二項ノ規定ハ本來詐欺取財ナルニアラサルヲ以テ之ヲ規定スルノ要アリ而シテ動産物ノ冒認ニ付テハ詐欺取財ヲ以テ論セムヨリハ寧ろ竊盜トシテ論スルヲ至當トス蓋シ立法者ハ此場合ニ於ケル被害者ヲ其冒認物ノ買主交換者若クハ抵當典物トシテ取得シタル債權者ナリトセリ然レトモ余ハ其冒認セラレタル物ノ所有者ヲ被害者トスルヲ至當ナリトス何トナレハ買主等公商ニ由リテ他ニ轉賣シタルトキハ既ニ無償ニテ之ヲ取戻スコトヲ得サレハナリ是故ニ物件ノ所有者ハ常ニ被害者ニシテ時ニ或ハ取得者其被害者ト爲ルコト贓物ヲ買受ケタル場合ト

異ナラサルナリ已ニ所有者其被害者ナリトセハ不動産ノ場合ト異ニシテ其所爲ハ竊盜ト異ナラサルナリ而シテ冒認ハ自己ノ手裡ニ在ラサル物ヲ自己ノ所有物ノ如ク見セ掛ケテ販賣交換スル所爲ナルヲ以テ動産ノ冒認ハ實際頗ル稀有ナルヘシ

第三百九十三條第二項ノ犯罪ヲ構成スルニハ第一ノ抵當カ第三者ニ對抗シ得ヘキモノナラサルヲ得ス何トナレハ若シ第一ノ抵當ニシテ第三者ニ對抗シ得ヘキモノニアラサレハ其被害者ハ第一ノ抵當債權者タル可ク而シテ法文ニハ「欺隱シテ云々」トアリテ其被害者ノ第二ノ抵當債權者又ハ買主タルコトヲ要スルハ明ナレハナリ

受寄財物
費消罪

第二 受寄財物ニ關スル罪

受寄財物費消ノ罪ニハ左ノ三條件ヲ要ス

- 第一 有体ニシテ且代替物ニ非サル動産タルコト
- 第二 其物件民法上ノ原因ニ因リテ自己ノ占有内ニ在ルコト
- 第三 其物件ヲ費消スルコト

第一 有体ニシテ且代替物ニ非サル動産タルコトヲ要ス、物件特定セサルトキハ假令之ヲ費消スルモ他ノ同質同量ノ物ヲ以テ辨償スルコトヲ得ルカ故ニ罪ト爲ラサルナリ

第二 其物件民法上ノ原因ニ因リテ自己ノ占有内ニ在ルコトヲ要ス、此要素ハ他ノ犯罪即チ冒認罪等トノ區別アル所以ニシテ民法上ノ原因トハ寄託契約又ハ貸借契約等ヲ指シタルナリ此等ノ原因ヨリ民法上義務ヲ負ヒテ占有スルトキニアラサレハ此罪ヲ成サス蓋シ刑法カ此所爲ヲ罪トシテ罰スルハ信用ニ背反スルヲ一ノ理由ト爲セリ信用ニ背反スト云フニハ其寄託者ト受寄者トノ間ニ民法上權利義務ヲ生シタルコトヲ必要トスレハナリ然レトモ民法上權利義務ノ關係アルノ一事ヲ以テハ未タ直チニ信用ニ反スルモノト謂フヘカラス故ニ他人ノ遺留シタル物ヲ賣却スルモ受寄物費消ノ罪アルコトナシ若シ或論者ノ說ノ如ク此場合ニモ尙ホ受寄物費消ノ罪アリトセハ此罪ノ成立要素トシテ民法上ノ原因ニ因リテ自己ノ占有内ニ在ルコトヲ要セス自己ノ監督内ニ在ル物件タルヲ以テ足レリトスヘシ果シテ然ラハ其極遺失物ヲ賣却スル所爲モ亦受

寄物費消ナリトスルモ亦不都合ナキニ至ラン

第三 其物ヲ費消スルコトヲ要ス所謂費消ノ何タルニ付テハ學說區々トシテ未タ歸一スル所ナシト雖モ余ヲ以テ之ヲ視レハ處分スルノ所爲ヲ云フ物件ヲ毀棄シ又ハ賣却シテ既ニ取還スコトヲ得サルニ至リタルトキニ費消タルコト疑ナシト雖モ之ヲ抵當典物ト爲シタルトキハ何時ヨリ費消アリト謂フヲ得ルヤ或ハ之ヲ抵當典物ト爲シタル所爲ヲ費消ト謂フヘシト論スル者アリ或ハ其寄託者ヨリ返還ヲ請求シタルニ尙ホ之ヲ受戻スコト能ハサルニ至リテ始メテ費消アリト謂フヲ得ヘシト論スル者アリ然レトモ余ノ信スル所ニヨレハ其抵當又ハ質ノ消滅期限ニ至ルニアラサレハ未タ費消アリト謂フヘカラス何トナレハ物件ヲ抵當又ハ典物ニ供シタルトキハ其物ノ全ク毀滅シタルニアラスシテ其費消トハ即チ法律上ノ費消トシテ抵當又ハ典物トシテ差入レタル者カ之ヲ受戻スノ權利ヲ失フノ時ニ於テ費消アリト謂フヘキモノナレハナリ論者或ハ其期限未タ到達セスト雖モ既ニ之ヲ受戻スノ資力ナキニ至リタルトキハ費消アリト論スト雖モ余ハ然ラスト信ス何トナレハ抵當又ハ質ノ消滅期限未

大到ラサル間ハ尙ホ之ヲ受戻スノ權アルモノニシテ之ヲ受戻スノ資力ナキハ
 是事實上ノ障害タルニ過キスシテ法律上ノ失權ニアラス其尙ホ存在スルヤ恰
 モ天災事變ニ因リテ受戻ヲ爲ス可カラサルト同シケレハナリ
 受寄物費消罪ノ成立スル場合ニハ必ラス贓物返還ノ請求ハ成立セサルコトヲ
 知ルヘシ蓋シ寄託者之ヲ取戻スコト能ハサルカ故ニ費消罪ト爲ルモノニシテ
 若シ之ヲ取戻スコトヲ得ハ決シテ費消ノ事實アルコトナケレハナリ更ニ之ヲ
 理論上ヨリ考フルモ亦然ク斷定セサルヲ得ス凡ソ民事上法律ノ保護ヲ與フ可
 キモノハ最モ不注意ノ輕小ナル者トス而シテ今物ヲ貸與シ又ハ寄託シタル者
 ト人ヨリ物ヲ買取リタル者ト相争フニ當リテ法律ノ先ツ保護スヘキハ買主ニ
 シテ貸主又ハ寄託者ニアラス是貸主又ハ寄託者ハ信用スヘカラサル人ヲ妄信シ
 タルノ不注意アルカ故ナリ彼ノ詐欺取財又ハ竊盜ノ如キ犯罪アルニ當リテハ
 法律ハ不注意ヲ以テ被害者ヲ責ム可カラスト雖モ苟モ人ト契約スル者ハ其相
 手方ノ信用スルニ足ルヤ否ヤヲ確認シテ之ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ借用物又
 ハ受寄物ヲ費消スルカ如キ不信用ノ者ヲ信用シテ貸與又ハ寄託ヲ爲シタルハ

其過失ト謂ハサルヲ得ス之ニ反シテ借主又ハ受寄者ヨリ財物ヲ買取リタル者
 ハ其物カ果シテ賣主ニ屬スルヤ否ヤヲ確ムルノ要ナキヲ以テ犯罪ニ因レル物
 件タルモ以テ其過失ト云フヲ得ス故ニ貸主又ハ寄託者ハ借主又ハ受寄者ノ犯
 罪ヲ理由トシテ第三取得者ニ對シ其取戻ヲ請求スルコトヲ得サルナリ然レト
 モ此說ハ實際ニ採用セラレサルカ如シ
 第三百九十五條末段ノ所爲アルトキハ詐欺取財ニシテ受寄物費消ノ罪ニアラ
 ス該條ニ所謂拐帶トハ俗言ノ持逃ケナリ又所謂騙取ノ事實ニシテ寄託ヲ受ケ
 タル當時ニ存スルトキハ純然タル詐欺取財ニシテ特ニ此ニ規定スルコトヲ要
 セサルモノ、如シ然レトモ余ノ解スル如クナラハ此騙取ハ民事上ノ騙取ニシ
 テ刑事上ノ騙取ニアラス然ルニ尙ホ詐欺取財トシテ之ヲ罰スルハ其所爲ノ結
 果刑事上ノ詐欺アル場合ト異ナラサレハナリ
 騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アルニ因リテ詐欺取財ヲ以テ論スルニハ受寄物費消
 罪ノ總テノ要素ヲ具備スルコトヲ必要トス是第三百九十五條ノ法文ニ依テ明
 ナル所ナリ然レトモ實際ニ於テハ未タ此點ニ付キ一定セス殊ニ拐帶ノ場合ニ

ハ受寄又ハ費消ノ事ナキモ尙ホ之ヲ罰スルコト、爲セルカ如シ
第三百九十六條官署ヨリ差押ヘラレタル自己ノ所有物ヲ藏匿脱漏シタル罪ヲ
規定セリ是受寄物費消罪ト其性質ヲ同ウスルヲ以テナリ

贓物ニ關スル罪

第六節 贓物ニ關スル罪

本節ニ規定セル罪ハ強盜ノ贓物若クハ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件
ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル所爲ナリ第三
百九十九條及第四百一條ニ所謂「受ケ」トハ頗ル廣汎ナル語ニシテ受贈又ハ抵當
典物其他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス又「犯罪ニ關シタル物件」トハ犯罪ニ因
テ得タル物件ノ謂ナリ而シテ「詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シ」トアルカ故ニ遺失物
埋藏物タルコトヲ知リテ之ヲ受ケタルトキモ亦第四百一條ノ罪ヲ成スモノナ
リ然ルニ遺失物埋藏物ヲ藏匿シタル罪ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮又ハ二
圓以上二十圓以下ノ罰金ニシテ第四百一條ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮二
圓以上二十圓以下ノ附加罰金ニ處シ其刑ノ權衡ヲ失スルコト甚クシトス

第七節 放火失火ノ罪

放火罪

放火罪ノ要素ハ左ノ三トス

第一 放火ノ所爲アルコト

第二 燒燬スルコト

第三 家屋其他ノ建造物、船舶、汽車、竹木、穀麥、柴草其他ノ物件ナルコト

第一 放火ノ所爲アルコトヲ要ス、其手段ノ如何ハ之ヲ問フコトヲ要セス苟モ
燒燬スルニ足ルヘキ火力ヲ用非タルトキハ放火ノ所爲アリト謂フヘシ

第二 燒燬スルコトヲ要ス、燒燬トハ火力ヲ用非テ物ヲ毀損スルヲ謂フ而シテ
其毀損ノ程度ニ付テハ議論アリト雖モ多數學者ノ說ニ依レハ其物ノ用ヲ失ハ
シムルニ至ルコトヲ要スト爲ス而シテ其用ヲ夫ヒタルヤ否ヤハ事實問題ニ屬
ス

第三 家屋其他ノ建造物、船舶、汽車、竹木、穀麥、柴草其他ノ物件ナルコトヲ要ス家
屋ハ之ヲ分テ人ノ住居シタルモノト住居セサルモノトノ二トス人ノ住居シタ

ル家屋トハ住宅ノ謂ニアラスシテ現ニ人ノ住居セル家屋ヲ指シタルハ明ナリ
 現ニ住居セル者アルトキハ其家屋ノ自己ニ屬スルト他人ニ屬スルトヲ問フコ
 トヲ要セサル乎余思フニ必スシモ他人ノ所有タルコトヲ要セス自己ノ所有ニ
 屬スルモ他人此ニ住居スルトキハ第四百二條ノ罪ヲ構成スヘシ從テ第四百七
 條ニ所謂自己ノ家屋トハ他人ノ住居セサル自己所有ノ家屋ト云フノ意タルヲ
 知ヘシ

尙ホ一ノ研究スヘキハ自己ノ家屬ノ住居セルトキモ亦第四百二條ノ人ノ住居
 シタル家屋ト云フヘキヤ否ヤ是ナリ余ハ自己ノ家屬ノ住居セルトキモ亦人ノ
 住居シタル家屋ト解スルヲ至當トス斯ク解スレハ第四百七條ノ自己ノ家屋ト
 ハ頗ル狹隘ナルモノニシテ犯人一個ノ住居セルトキ又ハ其住人カ悉ク情ヲ知
 ル場合トス蓋シ刑法カ人ノ住居シタルト否トヲ區別シタルハ財産上ノ損害ニ
 重キヲ措キタルニアラスシテ人ノ身体生命ノ危険ヲ慮リタルナリ而シテ人ノ
 身体生命ニ付テハ犯人ノ家屬ト他人トニヨリテ其保護ヲ異ニスヘキモノニア
 ラサレハナリ

人ヲ殺害スルノ目的ヲ以テ放火シタル時ハ如何ニ之ヲ處分スヘキカ此問題ハ
 從來學者間ニ議論アル所ニシテ刑法ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火シタル者ハ
 死刑ニ處セリ是人ノ身体生命ニ危険ヲ生スルノ大ナルヲ以テナリ故ニ犯人カ
 其危険ヲ豫期スルト否トヲ問ハス第四百二條ニ依テ罰スヘシト論スル者アリ
 然レモ余ハ放火ト謀殺トノ二罪俱發ヲ以テ論スルヲ至當ナリト信ス何トナレハ
 立法者ハ人ノ身体生命ニ及ホス危険ヲ慮リタルニ相違ナキモ殺害ノ目的ヲ以
 テシタル場合マテヲ包含セシムルノ意ニアラサレハナリ而シテ謀殺モ放火モ
 共ニ死刑ニ處スヘキヲ以テ此問題ハ毫モ實益ナキニ似タリト雖モ若シ或論者
 ノ說ノ如ク單ニ放火ノミヲ以テ罰スヘシトセハ殺害ノ目的ヲ達シタルモ僅ニ
 家屋ノ一部分ヲ燒燬シタルニ止マルハ放火ノ未遂犯トシテ論セサルヘカラ
 ス之ニ反シテ謀殺罪ヲモ問フモノトセハ謀殺ハ既遂ナルカ故ニ死刑ヲ宣告ス
 ルコトヲ得ヘシ故ニ實際之ヲ論定スルノ必要アルナリ
 放火ノ罪ハ其燒燬シタル物件ニヨリテ刑ヲ異ニセリ是其財産上ノ損害ノ程度
 ニ從ヒタルナリ

14
3890
2390

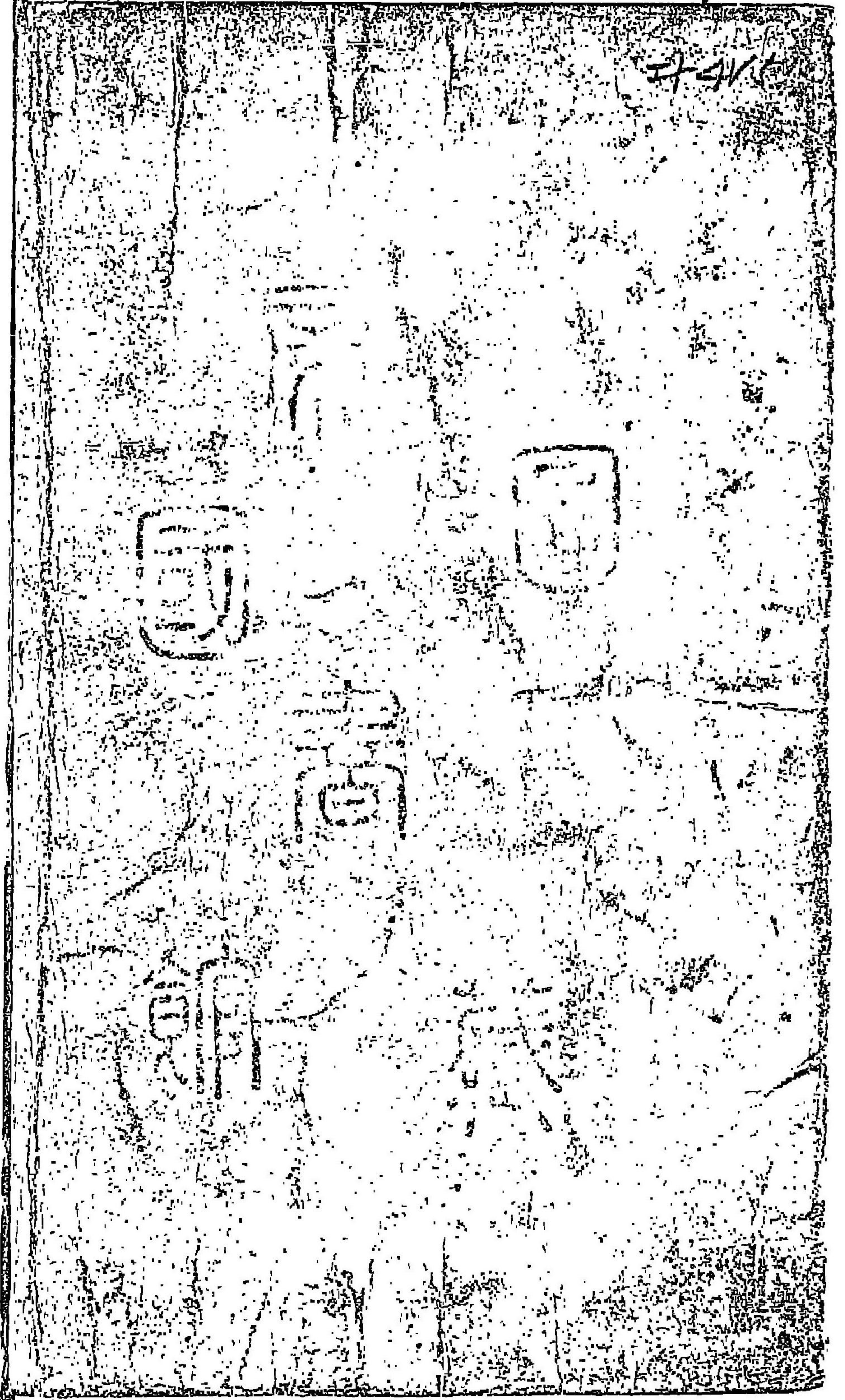
二七三三
1344

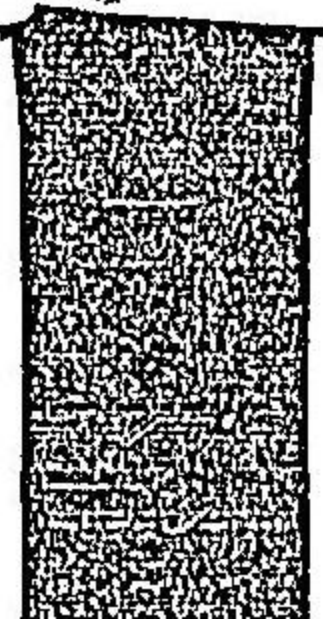
失火ノ罪ニ付テハ他ニ説明ヲ要スルモノナキヲ以テ之ヲ條文ニ讓ラン

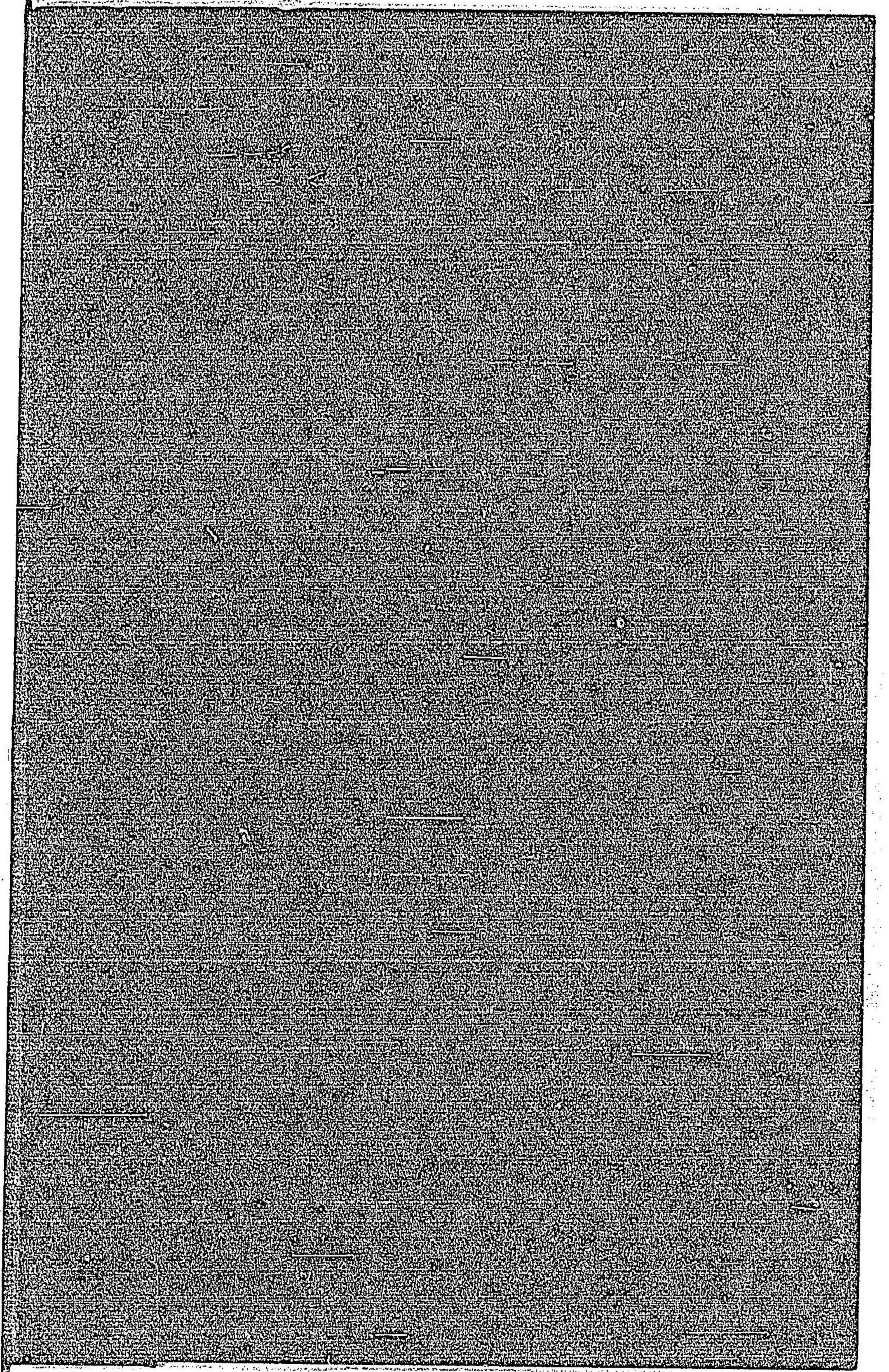
○

以上ノ外尙ホ決水ノ罪、船舶ヲ覆没スル罪、家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪並ニ第四編違警罪等アリト雖モ亦特ニ説明ヲ要スルモノアラサルヲ以テ之ヲ略シ此ニ刑法各論ノ講筵ヲ閉ツ諸君請フ焉ヲ諒セヨ

刑法(各論)講義 畢







14

339□

035638-000-6

14-339□

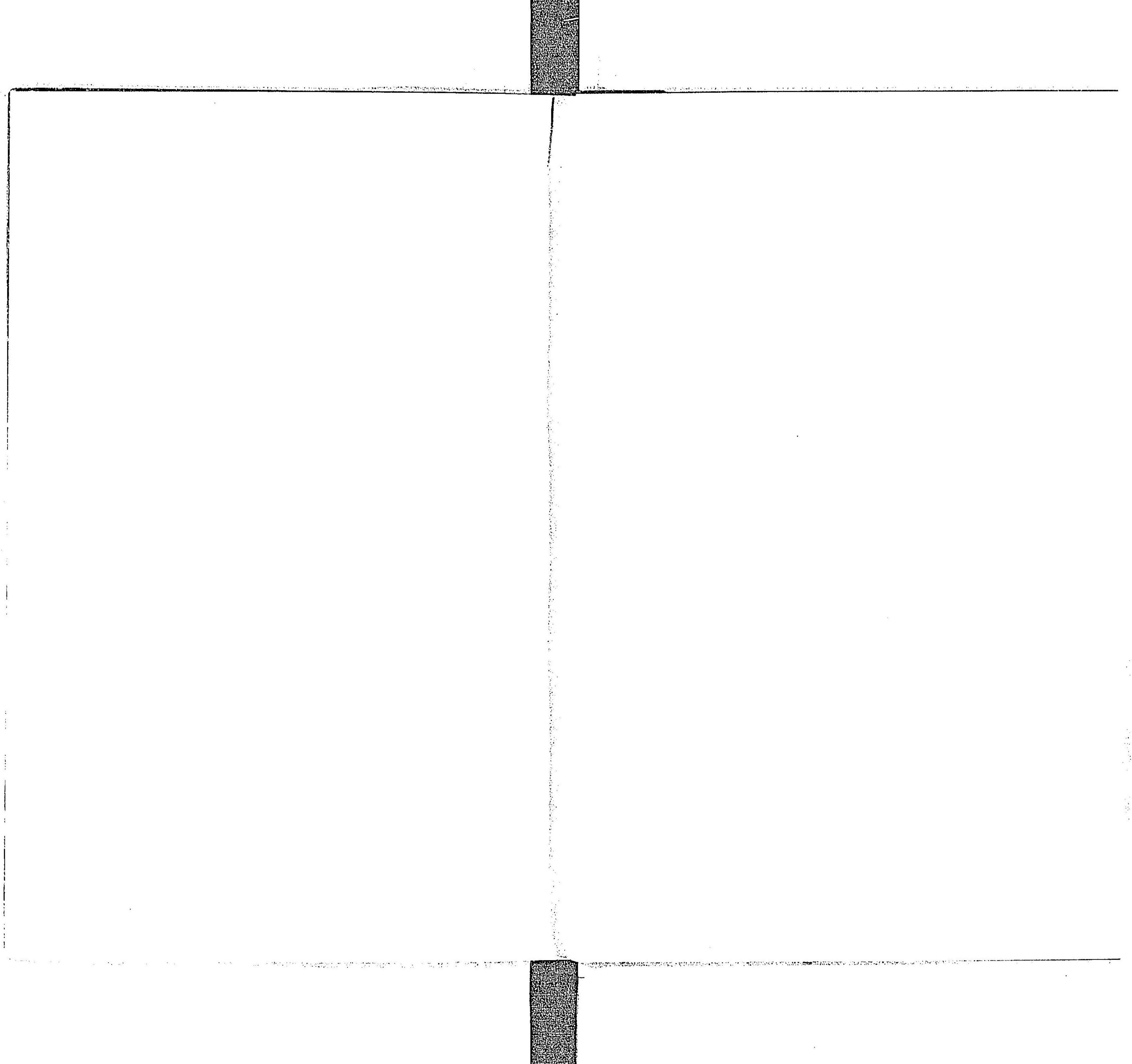
刑法各論

飯田 宏作/述

M27?

BBP-0190





斗4V51

14
339

和仙法律學校
第二期講義錄

刑法各論

飯田宏作